

日本国内各地の災害被災者の支援や被災地復興のための支援

「東日本大震災復興支援チャリティー展」事業

アートで地域を盛り上げる活動と 東日本大震災の被災地支援を合わせて行う

アートの力を活用して、歴史と伝統のある東京の四谷地区を盛り上げようとピエンナーレ形式で開催されている「四谷アートフェスティバル」。3回目の開催となった昨年は、東日本大震災から10年を経て、震災の記憶が風化しつつある現状を打破するために、震災地を支援するチャリティー展や物産即売会を合わせて実施した。



四谷アートフェスティバルの開催を告知するチラシと展示会場

四谷地区の文化振興の一翼を担う 四谷アートフェスティバルを開催

「四谷アートフェスティバル」は、東京都新宿区の四谷地区にかつて存在していた区立四谷第四小学校の旧校舎に設けられた四谷ひろば内のCCAAアートプラザにあるランプ坂ギャラリーに、一般公募で集められたアート作品をすべて展示し、アートの力で四谷の街を盛り上げようという取り組みである。

ももとは四谷地区の地域巡りなどを行い、その成果を写真展などの形で発表してきたが、2018年4月に同広場を管理する「四谷ひろば(サロン・ドゥ・よつや)」とNPO法人「市民の芸術活動推進委員会」が四谷地区の文化振興の一翼を担うべく、共同で「四谷アートフェスティバル実行委員会」を立ち上げ、第1回目の「四谷アートフェスティ

バル」を開催した。同フェスティバルの中心となるのは、絵画・立体・写真の公募展であり、大賞には10万円の賞金が贈られる。2020年に開催された第2回目のフェスティバルでは、「地域住民参加」というコンセプトを強く押し出し、公募展に合わせて、住民が手作りした造花1,000本を会場に展示し、好評を得た。

昨年、同実行委員会では第3回目となる四谷アートフェスティバルを開催するにあたって、東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、被災地の復興支援の一助となるよう、賛同するアーティストの作品を即売するチャリティー展や、宮城県・福島県の海産物や農産物の即売会を公募展と同時開催の形で実施することにした。この事業の実施にあたって、POSCの助成を活用した。

チャリティー展での作品即売や 物産販売で被災地支援を实践

昨年の9月16日から10月1日まで、金・土・日曜および祝日の計9日間開催された公募展では、開催に先立つ4月、四谷に所在する企業の「東京リボン」から材料提供を受け、地域のお年寄りに参加していただき、応募作品が展示される会場に飾るためのリボンフラワーを1,000個制作した。

公募展と同時期に開催したチャリティー展では、アーティストや陶芸家、竹工芸家計42名から150点を超える作品が提供された。作品の即売で得られた売上金の約30万円は、福島県須賀川市の原発被災者支援団体「ハッピーあいランドネットワーク」と、福島県二本松に設置された垂直営農ソーラーの企画・支援を行った「環境エネルギー政策研究所」へ寄贈した。

10月1日と2日に行った東北の物産即売会では、まず5～6月にかけて、石巻市、いわき市、浪江町を訪れ、現地

の観光協会や業者と打合せを行い、海産物などの調達をお願いした。即売会初日の10月1日には、石巻観光協会や元気市場の関係者が駆けつけて販売を行った。こちらも売上金の約30万円が、現地支援の一助となった。当初は2日間でどれだけの上りがあるか不安だったが、予想を超える売上があり、被災地支援の志を持った地域住民が多いことに感動した。そして、改めて即売会は継続することに意味があるのだと、肝に銘じ継続を目指したいと考えている。

実行委員が少ないなか、公募展、チャリティー展、物産即売会の開催は大変なことだったが、新たに加入した若手の精力的な活動により、なんとかクリアできた。教育機関関係者、行政機関から協力や賛同を得たうえ、四谷地区町会や商店街連合会の後援もあり、地域ぐるみの事業となった。



会場に飾るためのリボンフラワーの制作風景と好評であった物産即売会



助成団体:四谷アートフェスティバル実行委員会



今後も東北の被災地との交流を継続していきたいと考えています

私たちの活動へのご理解とご支援に、心より御礼を申し上げます。今回はアートフェスティバル公募展、チャリティー展、物産即売会の同時開催という形をとりましたが、なかでも被災地の復興支援ということで現地の方々との交流や支援金の提供を実現することができたことが喜びです。現地からは交流継続の要望が既に来ています。

四谷アートフェスティバル実行委員会
担当 遠藤 二郎さん